

ふたりのコラム

January 31, 2022

認定こども園あかみ幼稚園 園長 中田幸子
認定こども園メイプルキッズ 施設長 新井利枝

《3・4・5歳児》

ちょっと先の見通しを持ってたらいいですね！



みなさん、今年はどんな年にしたいとお考えでしょうか・・・

子どもたちの年齢等によって違いますが、少し先の見通しを持つということは大切です。例えば、5歳児になると、1か月先のこの日に向かって、何日までにこういうことをしよう、と考えることができるようになってきます。ただし、これは大人が一方向的に決めて計画に沿って行わせるということではなく、子ども自身が見通しを持って考える、そして実行していくということです。最も重要なのは、（見通しを持って）考えるということです。そしてそこに向かってやってみる、うまくいかなかったときには、計画の変更も含めて考えていくということです。3歳児においても、「お昼過ぎにお客さんが来るから、10時のおやつを食べたらお部屋を掃除するのだけれど、〇〇ちゃんもおもちゃのところを片付けられるかな？」と、予告をして、納得して進めるというようなことが少しずつできるようになります。その積み重ねで、次第に、ちょっと先の見通しが持てるようになってきます。園では、子どもたちが見通しを持って生活できるようにしています。おうちでも試してみてくださいね。

さて、今年は寅年、「新しい芽が成長する」・「新しい日常が始まる」・・・という意味合いもあるそうです。目標を持って、力強く進みたいものです。今年もどうぞよろしくお願いいたします！

キッズフェスティバルについて

キッズフェスティバルを前に家庭保育協力要請となり、子どもたちの活動をどうしていくのだろうと、心配をなさっている方がいらっしやると聞いています。限られた時間の中で、子どもたちにとっての最善の学びを考え、保育者同士お互い意見を出し合い、登園状況の有無にかかわらず、双方の園児に配慮した計画に立て直して保育を行っています。今後も、活動の過程を吟味しながら、子どもたちがねらいに向かってしっかり歩めるよう援助していきたいと思います。

さて、キッズフェスティバルの活動とは、各学年のねらい（3歳:自我の発見・4歳:自己肯定感・5歳:合意の形成）に向かって子どもたちが活動をしていく過程から、当日、その後までを言います。1年間の集大成であるこの行事は、1年間の育ちを積み上げてきたこの時期に行っています。

幼児期の教育・保育は、保育者が何かを教え込み、子どもが覚え込む、ということではないことを今までもいろいろな場面でお伝えしてきました。今一番大切なのは、「非認知能力」を育むことです。非認知能力とは、自尊心、自己肯定感、自立心、自制心、自信などの「**自分に関する力**」と、協調性、共感する力、思いやり、社交性、良いか悪いかを知る道徳性などの「**人と関わる力**」であると、遠藤利彦先生※は言っています。この力を獲得する最適な時期は乳幼児期であるとのこと。それは、遠藤先生がおっしゃっているだけではなく、『こども園教育・保育要領』に基づいてのことです。

この学びの機会を大切に、限られた時間で最大限に得られるような工夫を凝らしながら活動を進めていきます。また、この学びの場は、園ではもちろんですが、各ご家庭での保護者の方々とのかかわりの中でも培われていくものですので、日々の忙しい生活の中ではあると思いますが、ちょっと意識してお子さんとかかわっていただけると、より良い成長につながると思います。

※東京大学発達保育実践政策室センター（Cedep）センター長。先の子ども子育て国際フォーラムで、あかみ幼稚園に来園。

NHK すくすく子育て等でも、発達や子どもとのかかわり方についてわかりやすくコメント。

かまたき について

小さい学年での泥団子作りから、次第にカタチを作ることを楽しむようになってきます。また、泥粘土とかかわる中で、泥粘土の性質にも気づいていきます。素材の特性を知るということは、その素材を扱う上で大切な過程です。粘土での経験を積み重ねて、年長組になると卒園製作として作品を作り、園にも残していきます。その作品（もうすでに、年長組の子どもたちは作り上げている）を、穴窯で、3日3晩焼きます（2月末）。皆様には様子を配信予定ですので、映像にてご覧ください。



昨年の様子

ところで、園にある窯をご覧になったことはありますか。穴窯（名前は「やけたろう」といい、日本の古い窯の形態です。スイッチ一つで焼くことができる電気窯やガス窯ではなく、薪をくべて火を燃やして焼き上げる窯です。穴窯を使っているのは、子どもたちに焼成の過程がわかりやすいからです。

さて、薪をくべて焼き続けた窯の火をどのように消すのでしょうか!?

かまたきの時期になりましたら、親子で話題にしてみてください。答えは、配信される映像で……。お楽しみに！ （文責：中田）

《0・1・2歳児》

あらためまして、今年もよろしくお願いいたします。

コロナウイルスが猛威を振っています。園でも引き続き感染対策をしっかりと行い、子どもたちが安全に過ごせるよう努めていきたいと思いをします。

さて、最近、子ども達の成長を感じたエピソードをお伝えしたいと思います。

バスで帰る2歳児クラスの子も達が、帰りの準備をしている時でした。みんなそれぞれ、上着を着ようとしていたり、リュックを背負ったりしていました。一人の女の子が、上着に腕を通そうとしている様子を見て、私が「Sちゃん、先生手伝おうか？」と声を掛けると、無言で首を横に振りました。「Sちゃんは、自分でできるんだね。がんばれ！」と声を掛けると、その後、悪戦苦闘しながら、一人で上着を着ていました。私が「すごい！Sちゃん、自分で着られたね。みんな自分でできることがいっぱいあるね。」と言うと、周りの子たちも「見てて、出来るよ！」と誇らしげに準備をしていました。私が「みんな、なんでも自分でできちゃうね。もうすっかり、お兄さん、お姉さんだね！」と言うと、「だって、もう3歳だよ！」と応えてきました。その後も、何人かの子とやり取りをし、すっかり、たくましくなった子ども達の姿に成長を感じ、嬉しくなりました。

バス乗り場まで子ども達を送った保育者が戻ってきてから私のところに来て「りえ先生、あの後も子ども達はやる気満々で、バス乗り場には一番に着いちゃいました。やっぱり、肯定的な言葉掛けて大切ですね。」と言っていたのが印象的でした。子どもも大人も、認められるのって、うれしいですね。こうした、日々の小さなやり取りの中から、子ども達の成長を感じられたことはもちろん、保育者同士でも共感し合えることができた、うれしい出来事でした。



もう一つ、2歳児クラスでのエピソード・・・

お正月遊びとして、絵カルタを楽しんでいる子ども達。カルタと言っても、保育者が絵にかいてある名前を呼び、そのカルタを取るという、簡単なルールの遊びですが、それでも、2歳児にとっては、スリル満点！！自分なりに取りたいカルタがある子もいて、白熱しているようです。スタッフルームで仕事をしていると、隣の保育室からそんな盛り上がる様子が伝わってきていました。しかし、楽しそうな様子から一転、激しく泣く声が聞こえることも・・・どうしたのかな？と様子を見に行くと、どうやら、取りたいカルタを友達に取られてしまい、それが納得いかず泣きだしてしまっただけでした。近くにいた保育者が「K君も取りたかったんだね、悔しかったね。」と声を掛けると、大きな声で泣きながら頷いていました。「次は取れるかな？先生も応援するよ、頑張ってみよう。」と励まされるうちに、少しずつ落ち着いていきました。保育者が「K君はどのカルタが取りたかったの？次に読まれるかな？」と声を掛けると、K君はお目当ての

カルタを凝視していました。すかさず、違う保育者がK君お目当てのカルタを読み上げると、見事取ることができ、その後は、何事もなかったかのように、また絵カルタを楽しんでいました。

こうした姿は、2歳児ではよく見られます。まだまだ自分の気持ちをコントロールすることは難しいのです。『～したいのに、できない』この葛藤を繰り返している最中です。いつも思い通りにいくことばかりではありませんし、今回のように負けて悔しい思いをすることもあります。しかし、本来子どもたちは柔軟な存在です。柔軟だからこそ、色々なことを吸収し、学び、新しい環境にも馴染んでいけます。こうした経験を通して、『レジリエンス』（立ち直る力）を身につけていくのです。

仕方ないと気持ちを切り替えたり、忘れる力も重要です。柔軟な思考力や物の見方であったり、SOSを発信できたり、励ましたり、励まされたり・・・

レジリエンスを支えるためにはいくつもの力が必要です。子どもたちは、その力を日々の生活から学んでいます。そしてその学びには、私たち大人の丁寧な関わりも重要だと思います。成長過程にある子どもたちが、『レジリエンス』（立ち直る力）を身につけていけるよう、見守っていききたいですね。



余談ですが・・・

つい先日、娘と息子が誕生日を迎えました。一日違いという何とも微妙な誕生日なのです。

久しぶりに家族4人そろって、誕生日を祝いながら、昔話に花が咲きました。家族で色々な所へ出かけた話や、小さい時のエピソードや子どもたちが覚えていないような、色々な出来事……。家族で大笑いしながら、楽しいひと時を過ごしました。娘が22歳、息子が18歳になり、娘は春から社会人、息子は大学生となり、一人暮らしで家を出ていきます。それぞれが節目となる時期を迎え、私の子育てもひと段落……。母としての大きな役目を終えたように感じています。

家族揃って子ども達の誕生日を迎えるのも最後かな～なんて思いながら、成長をうれしく感じる気持ちと、何だか切ない気持ちとが入り混じってしまいました。子育て真っ只中のうちは、早く一人の時間が欲しいなんて思ったりもしましたが、無い物ねだりというか、今思うと、その頃が一番楽しかったなあ・・・と切に感じています。保護者の方は、今現在、仕事や子育てで大変かもしれませんが、みなさん、今が一番いい時ですよ！！この時期を大切に過ごしてくださいね。私は、第二の人生、これからの楽しみ方を考えていこうと思っています。

（文責：新井）

